

平成30年 12月市長定例記者会見

日 時：平成30年11月30日（金） 午後1時30分～午後2時

場 所：射水市役所会議室302

報道出席者：北日本新聞、富山新聞、北陸中日新聞、庄東タイムス、ホットライン KOSUGI

当局出席者：市長、企画管理部長、財務管理部長、企画管理部次長、未来創造課長（司会）、港湾・観光課長、生涯学習・スポーツ課長、道路課長

質疑応答の概要

Q1 . データ改ざん問題でのK Y B社の謝罪について、その対応や説明内容について改めて一言いただきたい。

A1 . 昨日、K Y B社が来庁し、謝罪及び現状と今後の対応について説明があった。射水市の庁舎には、4基のオイルダンパーが使われているが、これらのダンパーが基準に適合しているかどうか、現時点では不明ということである。直ちに調査結果を明らかにするよう申し入れをした。その上で、不適合品であれば当然のこと、また、判明に時間がかかるようであれば早期に新しい正規のものに取り替えるよう申し入れた。この問題が報道されてから正式な説明、また、情報などがなかなかいただけなかったということについて、市民の皆様が不安や憤りを感じていたと思われ、私たちも同様な気持ちであった。昨日の説明では、こちらが求めるような新たな情報提供がなかったことは非常に残念で、調査結果を早急に明らかにし、適切な対応をしていただきたい。

Q2 . （昨年）11月に当選されてから約1年経つと思うが、その1年間の振り返りと今後の意気込みを伺いたい。

A2 . 3期目として就任して1年が経過した。この1年は、富山新港開港50周年の節目の年であり、記念式典や様々な記念行事を開催した。改めて、50年の歩みや富山新港が開港されるまでの先人の方の努力、歴史的な背景、今日までの歩みなどを確認した。この50年間に、富山新港背後地に多くの事業所が立地し、そこで働く方々の住まいが太閤山ニュータウンとして形成された。50年前に描かれたまちの構想が、今の射水市の発展、基礎基盤になっていることを再認識した。将来を見据えて立案・企画

をし、実証していくことが大事だと改めて感じている。

この1年は、多くの自然災害などがあった。防災・減災という観点では、将来の安全・安心を確保していくという意味で、いろいろな課題が見えてきたので、こういった点をしっかりと捉えていきたい。また、将来の人口減少も大変懸念している。今後も、人口減少社会の克服に向けた取組を進めながら、射水市が幅広い年代の方々に選ばれるまちとして発展をし、魅力を高めていけるように頑張りたい。

Q 3 . 「IMIZU Football 3days」について。これまで射水市といえばパークゴルフのまちというイメージが強かった。今回3日間連続でサッカー・フットサルのイベントを開かれるということだが、今後、射水市はサッカーなどの新しいスポーツにも力を入れ、こうしたイベントを継続的に企画しているのか伺いたい。

A 3 . 今回の「IMIZU Football 3day」の企画は、市民に気軽にスポーツに親しんでもらい、親交を深める機会にすることが第一の目標である。市内でサッカー人口が増えていることもあるので、今回はサッカーにターゲットを絞り、参加しやすい企画とした。また、地域おこし協力隊の窪さんの人脈やネットワークを活用して企画をした。今後も色々な機会を通じて、フットボールに限らず市民がスポーツに親しめるイベント・企画を開催していきたい。